



県立三好病院



今月の内容

- ・ 心臓血管外科の紹介 徳島大学 心臓血管外科 藤本鋭貴 先生
- ・ 第1回 ケアCaféの開催
- ・ 三好病院 院内デイケア『さぎそう』開設

糖尿病専門外来

第2・第4月曜日に県立中央病院の糖尿病専門医が診察を行っています。受診希望の方は、かかりつけ医の紹介状が必要です。かかりつけ医から当院地域連携室を通してのFAX予約も可能です。

心臓血管外科の紹介

徳島大学心臓血管外科は毎週火曜日の午後に外来をさせていただいております。徳島市まで来ていただくことなく近くの三好病院で治療が必要かどうかの診断を行い、また治療後は経過を専門的に診させていただくことを目的としております。私たちが行っている治療分野は大きく成人心臓病、小児心臓病、血管病に分かれております。中でも特に力をいれております血管病と成人心臓病の低侵襲治療について紹介したいと思います。

血管病は高齢化に伴い非常に増加してきている病気です。その中でも血管が膨らむ大動脈瘤と血管が詰まってくる閉塞性動脈硬化症が代表的疾患です。

私たちはそれら疾患に対しできるだけ低侵襲で確実な治療を行う努力を行っております。



徳島大学 心臓血管外科
藤本鋭貴

A.大動脈瘤治療（図1）

私たちは中四国地方ではトップクラスの患者数の大動脈瘤治療を行っております。大動脈瘤は体の中で最も太い血管が膨らみ破裂に至る恐ろしい病気です。現在はステントグラフトという機材を用いて多くの場合簡単に治療が行えるようになってきております。特に私たちはステントグラフト治療においては国内でも屈指の数を挙げており都市部に負けない最先端の方法でできる限り体を大きく切ることなく負担の少ない手術を行っております。

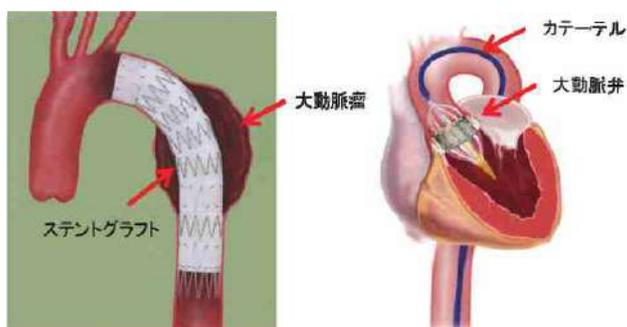


図1 ステントグラフト治療

B.閉塞性動脈硬化症

主に足にいく血管が狭くなったり詰まったりする病気です。歩行すると足が痛くなるのが典型的な症状です。治療は血管内治療（風船治療）とバイパス手術があります。血管内治療は侵襲の小さな治療ですが病変部位によってはバイパス手術が良い場合があります。私たちはその両方の治療を専門的に挙げる数少ない施設で、それぞれの治療を適切に組み合わせることで低侵襲かつ良好な血流の改善をはかれるように試みています。

成人心臓病は冠動脈疾患と弁膜症が代表的疾患です。冠動脈疾患は循環器内科で行う血管内治療（風船治療）が増えてきておりますが弁膜症の外科治療は増加してきております。徳島大学でも弁膜症の外科治療は増加してきており低侵襲な治療を心がけております。

A.冠動脈疾患

冠動脈疾患は心臓の血管が狭くなったり詰まる病気です。症状が出ると狭心症、心筋梗塞といわれます。治療は血管内治療（風船治療）が行われる場合が多いですが病変部位によってはバイパス手術が必要となります。バイパス手術は負担の少ない心臓を止めずに行う心拍動下手術が主流で私たちもほとんどの場合心拍動下に行っております。

B.弁膜症

弁膜症は心臓にある4つの部屋の間と出口にある弁が痛む病気です。胸の真ん中を切り開いて心臓を止めて行う手術が主流ですが最近のご高齢の方には胸を大きく切らない小切開による手術や血管内治療が行える時代になってきております。徳島大学でも小切開手術、血管内治療を行う準備が整いつつあります。

第1回 ケア Café の開催

ケア Café とは？

県西部における医療職者とともにテーマに沿ってカフェのように気軽に会話をを行い、そしてゆったりと意見交換する場です。参加者が共有した時間…そして、その時間で共有した意見を持ち帰り、反芻していただくのがケア Café の狙いです。

はじめに、6月2日に行われた第1回目となるケア Café では近隣病院・施設・当院より約50名の医療職種の方々に参加して頂きました。

三好病院では初の試みであり、参加者は自慢のマグカップを持ち寄り紅茶やコーヒーを飲みながら地域医療に関わる内容でワールドカフェ形式のグループワークを行いました。

第1回ケア Café の感想としては、参加者より「多職種と話ができよかった」「知識が増えた」など、概ね好評な意見が多く見られました。また、三好病院を身近に感じる事ができたなど、病院に対するイメージの変化も伺い知ることができました。カフェのような雰囲気の中かで、様々な職種の方の参加による、意見交換が実施できた結果だと思えます。

今後も、地域包括ケアシステムの構築のため積極的に活動を行っていきます。

次回は「認知症ケア」と題し、近日開催予定となっています。





三好病院 院内デイケア『さぎそう』開設

三好病院では、平成 28 年 4 月より「認知症ケアチーム」を立ち上げました。入院するとベッド上での生活が多くなり認知機能や活動性の低下が予想されます。高齢者の方や認知症のある方は、症状悪化やせん妄、昼夜逆転が見られることがあります。また、足腰が弱くなり筋力が低下する場合があります。

このことから多職種で構成されるチームにより、良好な療養環境の支援や早期の生活環境への適応を図るとともに患者さんの生活の質の維持を目的として、平成 28 年 6 月 8 日より三好病院院内デイケア『さぎそう』を開設しました。

日時：毎週水曜日 14：00～15：30

場所：4 階 談話室

対象：入院中で病状が安定しており医師の許可がある方

担当スタッフ：看護師・看護助手・作業療法士等で行っています



活動内容：「さぎそう」では、認知機能の改善が認められるといわれているアロマが香る中で、体操・ボール投げ・お手玉・ぬり絵・ちぎり絵・折り紙・習字・計算ドリル・音楽鑑賞や季節ごとの作品作りを行っています。

7 月は、短冊に願い事を書いたり七夕の飾り付けを行いました。

歌う事、手を使うことなどが脳の活性化に繋がり、患者さんは笑顔や活気があふれています。また、ご家族の方も一緒に参加しています。

今後も入院という環境の変化に伴う患者さんの機能低下や寝たきり予防のため、様々なことを取り入れて、患者さんに楽しんでいただこうと考えています。また、担当スタッフも「さぎそう」を通して患者さんとともに学んでいきたいと思ひます。



生き活き講座開催予定 『終活』を三好病院で語る
10/13 (木)【第 1 回】あと何年生きる？
10/27 (木)【第 2 回】何の病気で、どこで死ぬ？
11/10 (木)【第 3 回】人生最後の日までの準備
いずれも 13:30～14:45 三好病院 多目的ホール
詳しくはホームページを御覧ください

臨時看護師募集
随時募集しています
詳しくはホームページを御覧ください

～県立病院基本理念～

発行 徳島県立三好病院 広報委員会

県民に支えられた病院として

〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ 815-2

県民医療の最後の砦となる

TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910

御意見・御要望がございましたら、ホームページ、または院内御意見箱までお願いします。
広報バックナンバーは、ホームページ <http://www.miyoshi-hosp.jp> にて御覧になれます。